

「回復の基準点」

- 共時的通時的発展を目指す脱病院化社会モデル -

法政大学渡邊眞理研究室 富安達朗

健康とは。病とは。

現代の医療システムや病院建築は、患者生産工場と化し、人間の誕生から死までを技術の管理下におく。

現代の社会・都市環境において必要とされているものは「自覚的な健康 / 身体環境への意識の回復」ではないだろうか。

旧来の病院建築の領域を拡張して捉え直すべきであり、これまでの病院計画論にはないプログラム・機能を積極的に取り入れる必要がある。

多くの総合病院が機能不全が起きている日本において病院というビルディングタイプは今、変化を求められている。

本計画は Ivan Illich「脱病院化社会」を下敷きに「自覚的な健康 / 身体環境への意識」を回復させる場を構築することを目的とし、新しい社会インフラとしての医療の在り方とこれからの病院建築の在り方とを再考するものである。

01_背景

健康と総合病院 脱病院化社会



1 2017
Graduation Project
REFERENCE POINT
OF RECOVERY
Tetsuro TOMIYASU

■序論_研究目的・背景
脱病院化社会の中心となる
自覚的な健康 / 身体環境への意識

■概要

問題意識

- 1_医療に対する無意識・無自覚
- 2_患者生産工場と化す「病院」

研究目的

- 1_自覚的な健康 / 身体環境への意識の回復
- 2_医療圏を広げ治療施設と生活圏を間で繋ぐ市民医療圏の形成

■自覚的な健康 / 身体環境への意識

現代の医療システムや病院建築は、患者生産工場と化し、人間の誕生から死までを技術の管理下におく。総合病院に委ねられるのは「専門医的 / パターナリズム」のみならず、人間性や人権が奪われることで自分の身体環境への意識が低下させている。それは専門家が医療圏をコントロールすることの影響の大きさと医療圏自体が健康に対する脅威になりつつあることを意味する。

医療の対象拡大が人々の思考を無意識に支配するようになった結果、自分の身体、自分の健康にも関心せず他者を思い、人々がその脅威に無関心・無責任となり、医療に全面的に任せ、平気な無思考停止に陥りまわってしまっている。

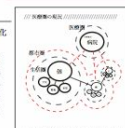


図 脱病院化社会



図 「病」 脱とは

Ivan Illich と医療圏

・参加型・人々と共に築く都市のあり方

イヴァン・イリッチ (Ivan Illich, 1926年9月4日 - 2002年12月2日) は、オーストリア、ウィーン生まれの哲学者、社会評論家、文明批評家である。現代産業社会で知られる。イヴァン・イリッチの有名な作品として『脱病院化社会』がある。

イリッチは、医療制度は「専門家依存的」なものでもあり、すなわち人間制や人の能力を奪い、不能化するものであると批判し、これを広義の医療圏 (社会的医療圏、文化的医療圏) であるとしている。

広義の医療圏



1. 臨床的医療圏

「病」を治すための医療行為。専門医の診断と治療。患者の身体を治療の対象とする。専門医の診断と治療。患者の身体を治療の対象とする。

2. 社会的医療圏

「病」を治すための医療行為。専門医の診断と治療。患者の身体を治療の対象とする。専門医の診断と治療。患者の身体を治療の対象とする。

3. 文化的医療圏

「病」を治すための医療行為。専門医の診断と治療。患者の身体を治療の対象とする。専門医の診断と治療。患者の身体を治療の対象とする。

都市の基準点 / 社会インフラ=病院

医療・福祉施設は強い経済圏、治療の効率、政策などの理由によって、都市を重鎮した均一な大型の病院になる事が多い。しかし今一度そのビルディングシステムを再考することで都市に新たな社会インフラの拠点、そして新たな社会インフラ構築できるのではないだろうか。



都市に存在する社会インフラとしての医療圏

2 2017
Graduation Project
REFERENCE POINT
OF RECOVERY
Tetsuro TOMIYASU

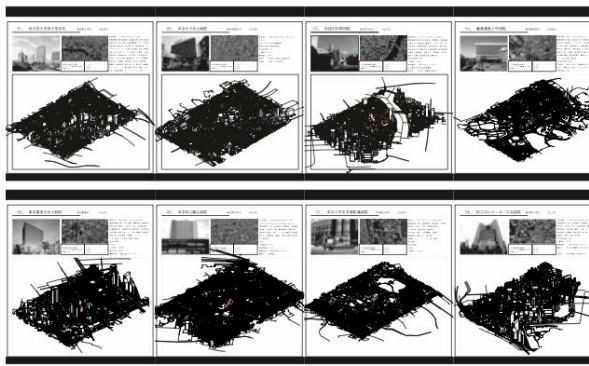
■事前調査

事前調査における調査内容
都市の基準点 / 社会インフラ=病院

事前研究

- 1_都市の基準点 / 社会インフラ=病院
- 2_病院報告からの予測

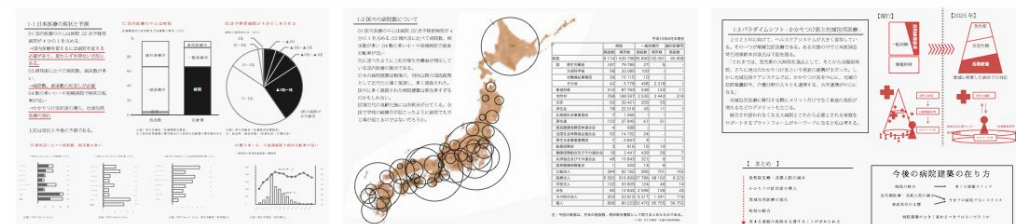
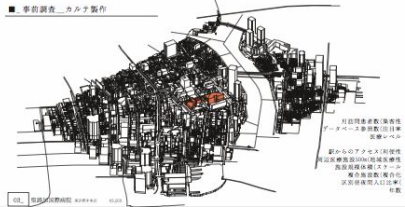
■国内医療圏の調査、事前調査「病院報告」のデータから都市のあり方を予測する。
■「国内医療圏の中心は病院=都市機能」として、(総合)病院は都市の機能を担っている。■都市機能の中心は病院=都市機能」として、(総合)病院は都市の機能を担っている。■都市機能の中心は病院=都市機能」として、(総合)病院は都市の機能を担っている。



■病院の再評価

病院情報データベース
をもとに都市の機能を再評価

病院名	病床数	診療科目	所在地
東京大学医学部附属病院	1,200	内科、外科、小児科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科、放射線科、病理診断科、臨床検査科、薬剤科、理学療法科、作業療法科、言語聴覚科、看護科、医療事務科、医療情報科、医療機器科、医療材料科、医療衛生科、医療安全管理科、医療環境科、医療文化科、医療経済科、医療法務科、医療倫理科、医療教育科、医療研究科、医療国際化科、医療連携科、医療評価科、医療改善科、医療革新科、医療未来科、医療創造科、医療起業科、医療ベンチャー科、医療投資科、医療金融科、医療保険科、医療福祉科、医療社会科、医療文化科、医療芸術科、医療スポーツ科、医療観光科、医療国際化科、医療連携科、医療評価科、医療改善科、医療革新科、医療未来科、医療創造科、医療起業科、医療ベンチャー科、医療投資科、医療金融科、医療保険科、医療福祉科、医療社会科、医療文化科、医療芸術科、医療スポーツ科、医療観光科	東京都文京区
慶応義塾大学医学部	1,000	内科、外科、小児科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科、放射線科、病理診断科、臨床検査科、薬剤科、理学療法科、作業療法科、言語聴覚科、看護科、医療事務科、医療情報科、医療機器科、医療材料科、医療衛生科、医療安全管理科、医療環境科、医療文化科、医療経済科、医療法務科、医療倫理科、医療教育科、医療研究科、医療国際化科、医療連携科、医療評価科、医療改善科、医療革新科、医療未来科、医療創造科、医療起業科、医療ベンチャー科、医療投資科、医療金融科、医療保険科、医療福祉科、医療社会科、医療文化科、医療芸術科、医療スポーツ科、医療観光科	東京都新宿区
東京大学医学部附属病院	1,200	内科、外科、小児科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科、放射線科、病理診断科、臨床検査科、薬剤科、理学療法科、作業療法科、言語聴覚科、看護科、医療事務科、医療情報科、医療機器科、医療材料科、医療衛生科、医療安全管理科、医療環境科、医療文化科、医療経済科、医療法務科、医療倫理科、医療教育科、医療研究科、医療国際化科、医療連携科、医療評価科、医療改善科、医療革新科、医療未来科、医療創造科、医療起業科、医療ベンチャー科、医療投資科、医療金融科、医療保険科、医療福祉科、医療社会科、医療文化科、医療芸術科、医療スポーツ科、医療観光科	東京都文京区
慶応義塾大学医学部	1,000	内科、外科、小児科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科、放射線科、病理診断科、臨床検査科、薬剤科、理学療法科、作業療法科、言語聴覚科、看護科、医療事務科、医療情報科、医療機器科、医療材料科、医療衛生科、医療安全管理科、医療環境科、医療文化科、医療経済科、医療法務科、医療倫理科、医療教育科、医療研究科、医療国際化科、医療連携科、医療評価科、医療改善科、医療革新科、医療未来科、医療創造科、医療起業科、医療ベンチャー科、医療投資科、医療金融科、医療保険科、医療福祉科、医療社会科、医療文化科、医療芸術科、医療スポーツ科、医療観光科	東京都新宿区
東京大学医学部附属病院	1,200	内科、外科、小児科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科、放射線科、病理診断科、臨床検査科、薬剤科、理学療法科、作業療法科、言語聴覚科、看護科、医療事務科、医療情報科、医療機器科、医療材料科、医療衛生科、医療安全管理科、医療環境科、医療文化科、医療経済科、医療法務科、医療倫理科、医療教育科、医療研究科、医療国際化科、医療連携科、医療評価科、医療改善科、医療革新科、医療未来科、医療創造科、医療起業科、医療ベンチャー科、医療投資科、医療金融科、医療保険科、医療福祉科、医療社会科、医療文化科、医療芸術科、医療スポーツ科、医療観光科	東京都文京区
慶応義塾大学医学部	1,000	内科、外科、小児科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科、放射線科、病理診断科、臨床検査科、薬剤科、理学療法科、作業療法科、言語聴覚科、看護科、医療事務科、医療情報科、医療機器科、医療材料科、医療衛生科、医療安全管理科、医療環境科、医療文化科、医療経済科、医療法務科、医療倫理科、医療教育科、医療研究科、医療国際化科、医療連携科、医療評価科、医療改善科、医療革新科、医療未来科、医療創造科、医療起業科、医療ベンチャー科、医療投資科、医療金融科、医療保険科、医療福祉科、医療社会科、医療文化科、医療芸術科、医療スポーツ科、医療観光科	東京都新宿区



02_提案

脱病院化社会のための準医療圏
手法とシステム

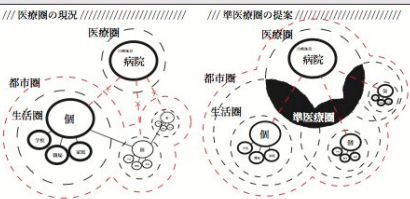
(1) 脱病院化社会モデル

「脱病院化社会」を目指すために準医療圏を形成し
医療圏を広げ治療施設と生活圏を間で繋ぐ「建築」
自覚的な健康 / 身体環境への意識を回復させる「機能」
を提案する。

(2) 条件の整理

病院のような建築は運用に費用がかかり、酷使されるので新築するならば、少なくとも100年の寿命を考える必要がある。しっかり建てて長く使う、その間に時代の要請に応じて機能的に改変が不可欠である。LCC(ライフサイクルコスト)でも指摘されているように建築の付帯設備・機器は5~10年で交換が必要だが、建築構造体は長寿命であるがゆえに、柔軟性の確保が要求される。

病院建築には柔軟性と恒久性が要求される。
これは相反する時間軸にありその両面性は「通時性」と「共時性」によって解釈することが出来ると考えた。
以上より今までの強固で巨大な建築システムではなく、むしろ部分的に代議していく集合体のシステムとしての医療施設の在り方を考える。



1. 手法

「パラ・プログラミング」

従来の建築の現場を拡張して周辺環境を含めた集合体と捉え直し、機能の要素、配置、接続、導入をおこなう

2. システム

「アタッチメント」

自覚的な健康 / 身体環境への意識を回復させる「機能」を食住

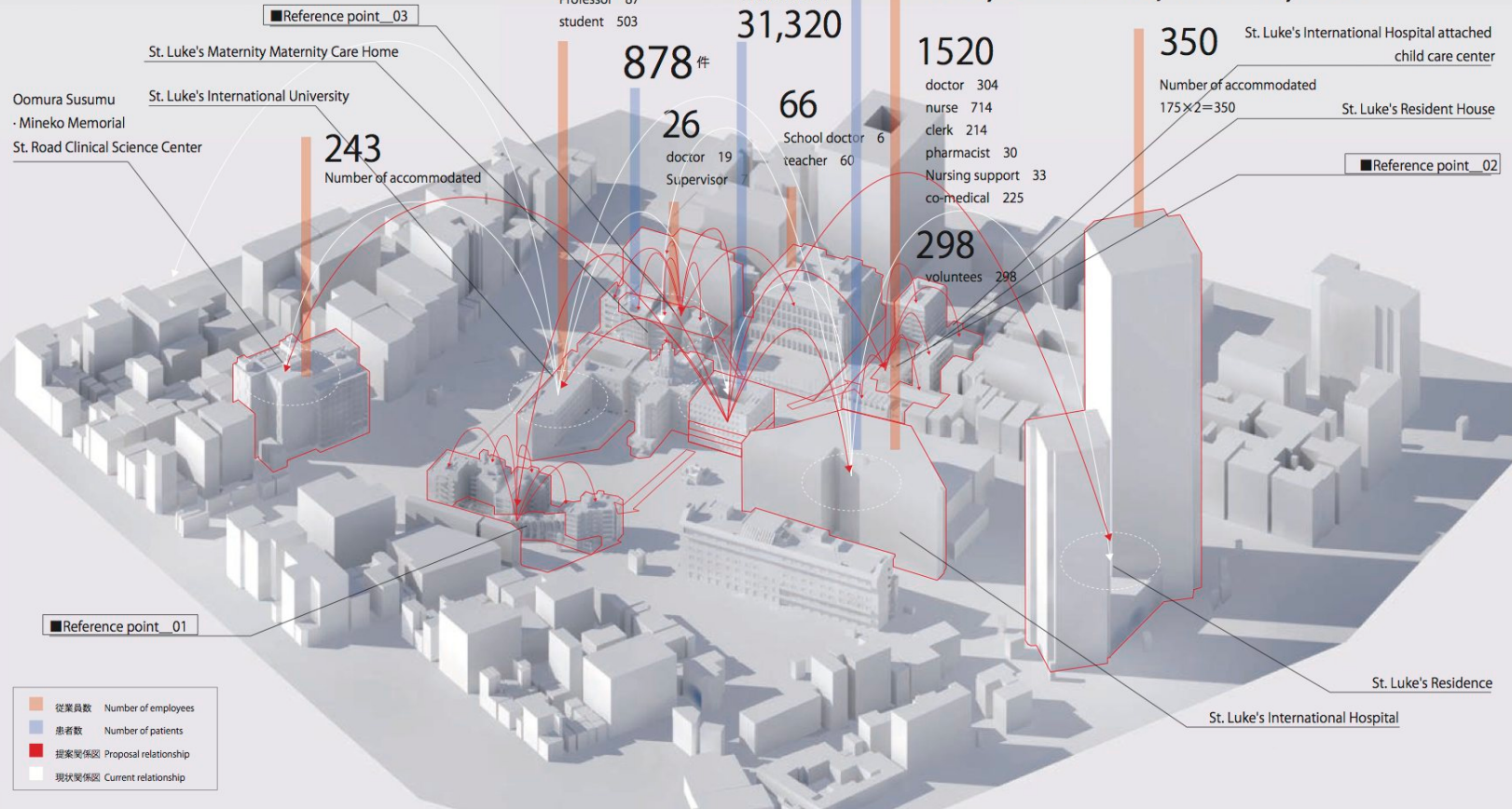
3. 適用

3-1. 変容モデル
旧病院施設の保存部分を含む区域の周囲ウィング改修計画案

3-2. 織入モデル
周辺街区に設定された3つのモデル必要とされる下記の機能を中心に計画
・A. 腎センター
・B. 小児科なども医療
・C. マタニティ・外国人患者

パラ・プログラミングによる計画案図

1_準医療圏の構築と明石町再編



8

■ 建築プロセス

1. 建築の現場を拡張して周辺環境を含めた集合体と捉え直し、機能の要素、配置、接続、導入をおこなう

10

■ システム

1. 自覚的な健康 / 身体環境への意識を回復させる「機能」を食住

11

■ 適用

3-1. 変容モデル
旧病院施設の保存部分を含む区域の周囲ウィング改修計画案

3-2. 織入モデル
周辺街区に設定された3つのモデル必要とされる下記の機能を中心に計画
・A. 腎センター
・B. 小児科なども医療
・C. マタニティ・外国人患者

10

■ システム

1. 自覚的な健康 / 身体環境への意識を回復させる「機能」を食住

11

■ 適用

3-1. 変容モデル
旧病院施設の保存部分を含む区域の周囲ウィング改修計画案

3-2. 織入モデル
周辺街区に設定された3つのモデル必要とされる下記の機能を中心に計画
・A. 腎センター
・B. 小児科なども医療
・C. マタニティ・外国人患者

6

■ 建築プロセス

1. 建築の現場を拡張して周辺環境を含めた集合体と捉え直し、機能の要素、配置、接続、導入をおこなう

10

■ システム

1. 自覚的な健康 / 身体環境への意識を回復させる「機能」を食住

11

■ 適用

3-1. 変容モデル
旧病院施設の保存部分を含む区域の周囲ウィング改修計画案

3-2. 織入モデル
周辺街区に設定された3つのモデル必要とされる下記の機能を中心に計画
・A. 腎センター
・B. 小児科なども医療
・C. マタニティ・外国人患者

03_ 設計

抽出された機能を核に交わる3つの 融和モデル

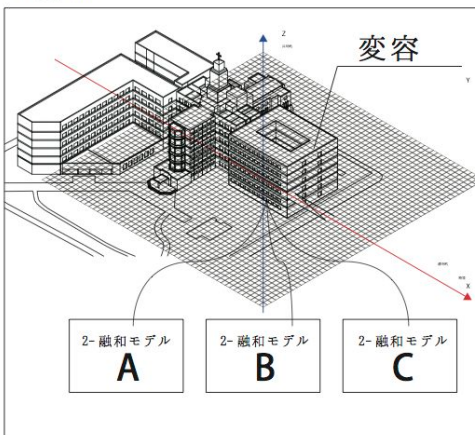
旧病院棟保存部分を含む区域の周辺街区に設定された3つのモデルである。聖路加国際病院周辺には薬局や聖路加の施設が集中しており独立していた建築群をひとつの集合体として捉える計画案とした。

Aによって置換される機能が設定されたエリアの医療圏の基準点として機能し、医療圏を広げ治療施設と生活圏を間て繋ぐ「建築」となる。

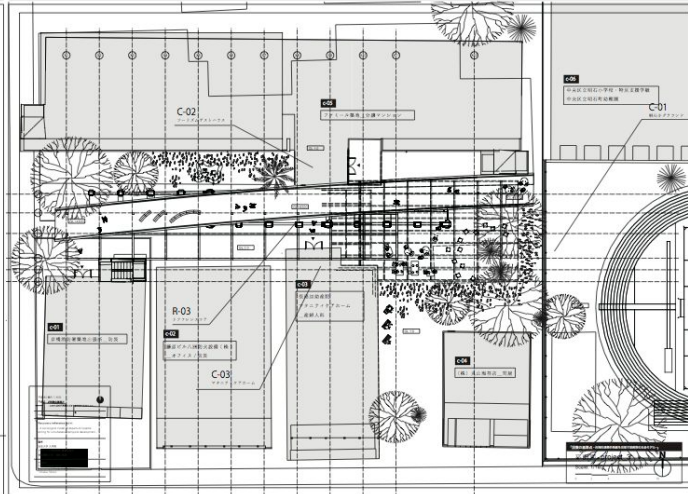
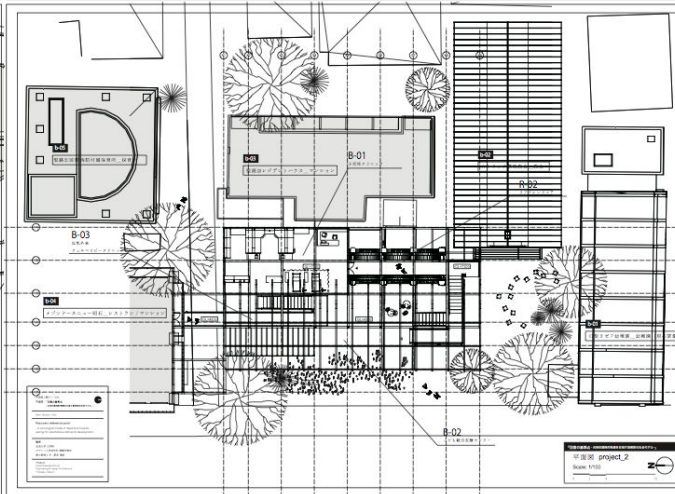
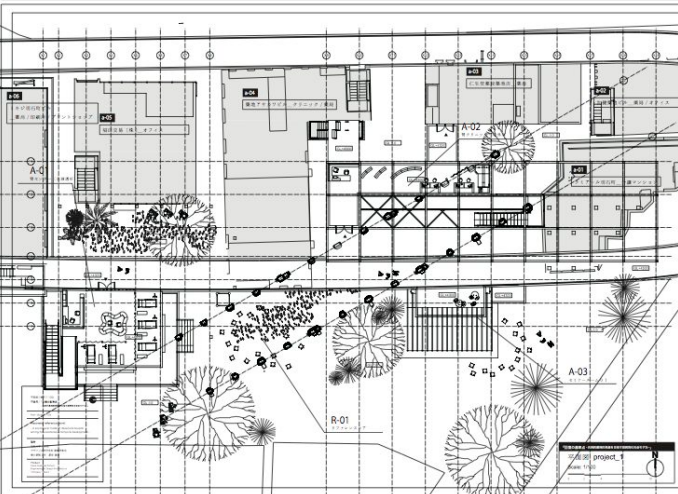
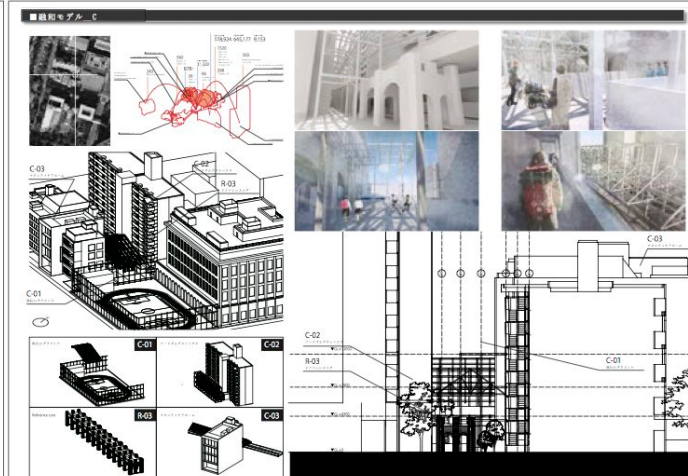
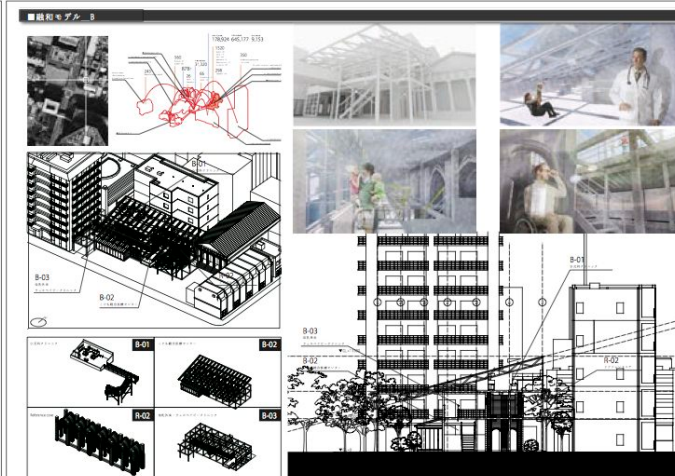
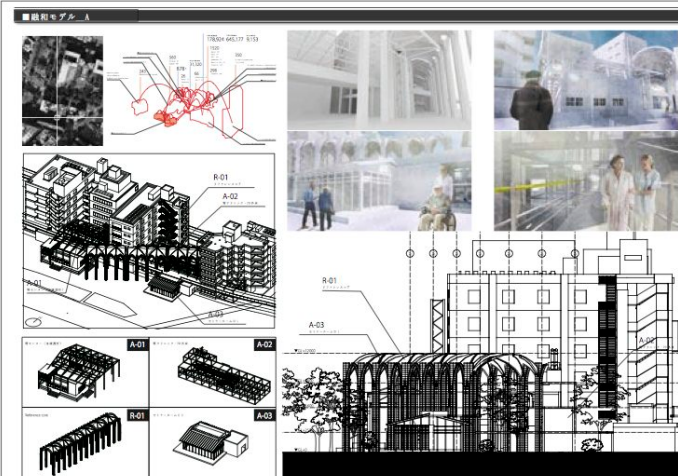
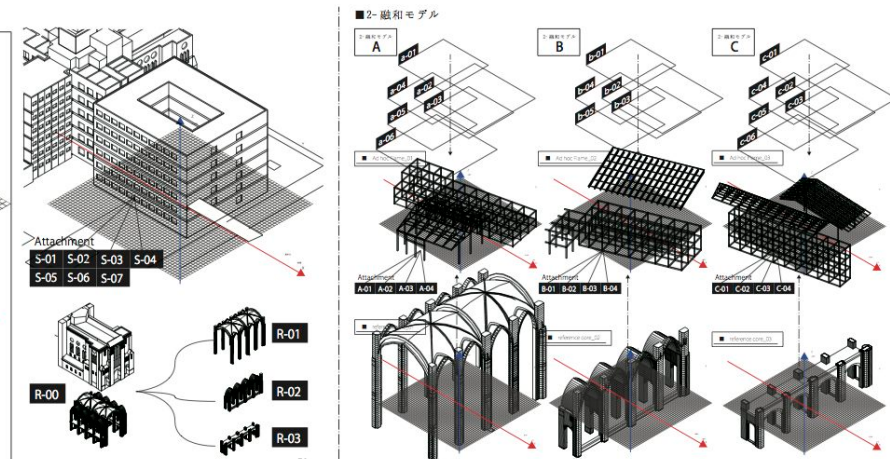
■明石町周辺街区と機能



■1-変容モデル



■2-融和モデル



04_設計

準医療圏としての病院・拠点
変容モデル

旧病院棟の保存部分を含む区域の東側ウイング改修計画案である。パラ・プログラミングによって従来の機能が置換され新規プログラムが導入される。かつて総合医療の中心だった旧棟が中心機能が新棟に移行し、準医療圏の為の建築として敷地明石町の新しい社会インフラに生まれ変わるものである。

計画対象周辺には医療施設が集中しており、独立していた建築群をひとつの集合体・医療圏として捉え直す計画を行った。形成された準医療圏はこれからの医療と個人の関係を改善するものであり、人々の自覚的な健康 / 身体環境への意識の回復へと繋がるはずである。医療病から脱却したとき病院建築は新しい社会インフラとして生まれ変わるのではないだろうか。

